

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	017590083		
法人名	社会福祉法人 清光園		
事業所名	グループホーム まどか		
所在地	〒068-0534 北海道夕張市清水沢宮前町2 2番地 (電話) 0123-59-2525		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】 (平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤 12人 非常勤 5人	常勤換算 14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	一部2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱費16,000円 ・暖房費6,500円(10月～4月)		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(3月19日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	6名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.4歳	最低 75歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	夕張市立診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は夕張市中央の閑静な住宅地にあり、認知症高齢者が家庭的な雰囲気の中、安心して暮らせるようにと、専門家による設計で造られた。運営母体は特別養護老人ホームやデイサービスを展開している社会福祉法人である。事業所は頻繁に母体組織から職員の異動を求められるため、利用者や家族との馴染みの関係構築が難しく、計画的な職員研修も立てられない状況である。また、職員数にも限りがあるため、夜勤者が1人で二つのユニットを見る不安も抱えている。今後、利用者との馴染みの関係が継続でき、安心して安全な暮らしが送れるよう、職員の定着率を上げ、職員の質とケアサービスの質を確保をしていかれることが期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で出された改善課題については、具体的改善計画や、改善に向けての具体案の検討、実践に繋げるための見直しなどは行われなかった。また、改善内容を全職員が把握する会議やミーティング等の機会を設けるには至らなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員での取り組みは行われておらず、サービス計画作成者と管理者で作成し、職員の閲覧に留まっている。作成された自己評価が職員合議の結果には至らなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議(不定期開催)は、現在まで3回開催され、事業所の現状や利用者の暮らしぶり等を報告しているが、地域住民の出席も少なく、地域の意見や協力が得られるような会議とはなっていない。評価結果も報告されていない。現在、運営推進会議をどのように活かし、地域との関わりを深めていくか模索中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族との会話に心がけ、機会を捉えて利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。来訪できない家族には電話や手紙などをおして、意見、要望、心配事などを伺い、一人ひとりの希望に添えるよう取り組み、運営に反映させている。広報誌は利用者の日常生活や事業所の実状が伝わるため、発行回数を増やせるよう取り組み中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には事業所として加入している。祭り時にはお神輿が来たり、イルミネーションの点灯式に出かけたりするなど、徐々に参加できる地域行事も増え、利用者の楽しみ事となってきている。しかし、事業所と地域の人々が支え助け合い、連携を深めていくような双方向の関係作りが出来るまでには至っておらず、今後の課題となっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続支援と、人と人との支えあいの関係性を重視した、独自の理念をつくりあげ、玄関や共用空間などにわかりやすく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念を伝えてはいるが、理念を掘り下げて話し合う場面や機会が持たれておらず、職員全体への理念の浸透は十分とはいえない。	○	理念は実践に活かされてこそ意味があり、日々のサービス提供において、理念が反映されているか、職員全体で深く掘り下げ、話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図りながら、ケアサービス提供に取り組むことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には事業所として加入している。祭り時にはお神輿が来たり、イルミネーションの点灯式への参加等してはいるが、事業所と地域の人々が支えあうような双方向の交流については課題として挙がり、現在、小、中、高校との交流を検討中である。	○	地域密着型サービスは利用者が地域の中で暮らしていくことを積極的に支えていくサービスである。学校行事や地域活動等の情報を集め、積極的に参加したり、ボランティア活動を取り入れるなど、地域との双方向の交流を深める努力が期待される。さらに火災、災害時における避難協力を得るためにも地域住民との協力体制が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や目的が全職員には伝わっていない状況である。今回の自己評価にあたっては、全職員で実施されておらず、外部評価の結果においても具体的改善に向けての検討がなされていない。	○	評価を形式的な作業に終わらせず、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で評価に取り組み、外部評価結果を基に職員の意識合わせ、ケアの振り返り、見直しに繋げ、サービスの質の確保に活かしていくことが必要である。そのためには、定期的に職員全体会議やミーティング等が開催できるような体制作りが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで3回開催（3月に4回目予定）されているが、2ヶ月に1回以上という省令に沿った取り組みには至っていない。会議では事業所の現況や活動内容についての報告など行っている。会議のより良い運営について検討課題として挙がっている。	○	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための重要な機会であり、幅広い立場の人達に積極的に参加してもらえる働きかけが大切である。地域密着型サービスの充実、サービスの質の向上などに繋げる、建設的話し合いの場である会議が、定期的開催される取り組みが早急に望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、利用者の実状に合わせた相談、受け入れ等の情報交換を行い、連携を取りながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪される家族も多く、その都度日々の暮らしぶりや身体状況等を伝えたり、毎月の請求書と共に利用者の近況報告を兼ねた手紙を出している。事業所便りの「まどか通信」は今年度は2回の発行であった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を提示し、玄関横にも掲示されている。家族の来訪時にも、意見や不満、苦情の聞き取りを行っているが、現在まで苦情は発生していない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人側の都合で職員の異動が頻繁にあり、利用者、家族に十分な説明や対応はなく、利用者や職員の馴染みの関係構築は困難である。	○	運営者と事業所は、認知症高齢者が安全に安心して暮らしを確保するための責務を、今一度良く話し合われ、職員交代による利用者や家族が受ける影響を十分検討し、利用者や家族等への配慮を含めた対応が早急に望まれる。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の異動が頻繁なため、管理者は研修計画を立てる事はできず、限られた職員数のため、内部研修や外部研修に参加できる機会も少ない。職員の育成を具体化する方針や姿勢を確認できるまでには至らなかった。	○	利用者がサービス提供を受ける上で、職員の「質」はそのまま「安心」「安全」に反映されるため、運営者は職員育成の重要性を認識し、全職員が地域密着型サービスの従事者として、内部研修はもとより外部研修等へ積極的に参加し、「質」を向上させていける機会を提供する事が望まれる。又、段階に応じた研修の機会も計画的に確保される工夫が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会の研修やケアマネ連絡会議等に参加し、他の事業所と情報交換を行っているが、日々のサービス向上や職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図るまでには至っていない。当市には他に2軒の事業所がある。	○	同業者との交流や連携が何故必要なのかを、事業所全体で話し合い、その重要性を把握した上で、職員の見学や交換研修、勉強会などの機会を持ち「他を知る事による自己サービスの気づき」に発展する事を期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前、本人、家族等に見学してもらい、意見、要望、質問などを聞き、本人が安心と納得のいくサービス利用ができるよう、家族の協力の下、相談しながら工夫している。帰宅願望の強かった利用者には、半年近く毎日、職員が外出に付き添い、見守り支援が行われた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の異動が多いため、職員は利用者一人ひとりの生活歴の把握や、「こだわり」や「苦しみ」「不安」「喜び」「楽しみ」などの本人の思いを深く理解する関係性を築くまでには至っていない。	○	職員と共に喜怒哀楽を共にする関係作りは、まず職員が利用者の生活歴や人生背景から、個性や力量、意向などを知る必要がある。職員の異動が多いと利用者を深く知り、学び、支えあう関係作りは難しいため、職員の定着率を上げ、馴染みの職員による安心と安定した日常の確保の中から、共に学び、支えあう関係を築いていける事が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めてはいるが、過去の生活歴や情報を活かし、本人本位に検討する仕組みや体制が確保されておらず、十分取り組みに活かされていない状況である。	○	利用者がその人らしく暮らし続ける支援を行うには、一人ひとりの希望や意向等の把握が不可欠であり、職員全体での情報の共有も大切である。利用者の生活歴や社会背景、家族の意向などを踏まえ、利用者にとって、どのように暮らす事が最良なのかを家族を交えて本人本位に検討されることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録や申し送り事項を基に、介護計画は作成されているが、職員や家族と共に話し合いの場をもち作成された内容には至っていない。	○	日々の利用者の記録を具体的細やかに記録に残し、現状においてどのような支援が最適か、アセスメントを含め全職員で意見交換や、モニタリング、カンファレンスを行うことが望まれる。また、本人、家族からの気づき、意見、要望が反映された介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回、サービス担当者会議を開き見直しを行い、状態に変化があった場合はその都度、見直しを行ってはいるが、毎月職員全体でのカンファレンスもなく、本人、家族、必要な関係者と話し合っの介護計画の作成には至っていない。	○	本人及び家族の状況は刻々と変化しており、思いや意見、意向等に常に耳を傾け、必要関係者と話し合いながら、それが反映された介護計画の作成となるよう、工夫されることが望まれる。また、アセスメントを含め全職員での意見交換やモニタリング、カンファレンスも行われていないため、早急にその体制作りが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、行事参加、外出、通院送迎など、事業所や、母体組織の車を活用し必要な支援に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得のもと、協力医療機関である夕張市立診療所と連携し、月2回の訪問診療が行われている。緊急時には24時間相談できる訪問看護師が確保され、適切な医療が受けられる体制である。家族の要望による歯科医の訪問診療を受けている利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体組織の方針として重度化した場合や看取りに関しては、事業所では行わず、法人運営の特別養護老人ホームが対応する事になってはいるが、入居時の契約書、運営規定、重要事項説明書等には明確な取り決めがなく、早い段階からの方針の共有について取り組むよう期待したい。	○	利用者の重度化や終末期に向けた有り方については、本人や家族の最大な関心と不安要素の一つである。事業所側の考え方や意向を明確に書面に落とし、双方が納得の上、本人と家族が安心してサービスを利用できるように、指針や同意書が整備される事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員の言葉遣いや、尊厳のある対応に注意をはらい指導している。昼食時の職員の言葉かけや見守りは適切に行われていた。記録等の個人情報に関する物品の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや事情を考慮し、常に利用者本位のペース、自己決定や選択が損なわれないよう支援している。利用者の表情は明るく、思い思いの場所でゆったりと生活している姿がうかがわれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力量に応じて、食事の準備や配膳、方付けなどの一連の作業を利用者と職員が共に行っている。食器拭きは当番制にしている。誕生日や行事には、希望の献立を作成し、職員と共に楽しい食事が出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態に応じて、概ね週2回～3回の入浴支援が行われている。利用者の希望によっては、毎日の入浴が可能である。入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけなどを工夫し、湯に入る抵抗感を無くすよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と利用者はゲームや会話を楽しんでいるが、職員の異動、離職が多いため、一人ひとりの情報を深く知る機会も少なく、利用者の生活歴や残存能力を活かせる支援までには至らなかった。	○	利用者のこれまでの生活歴や社会背景を職員全体で把握する会議やミーティングなどを定期的に行き、それぞれの楽しみ事や得意な事、興味のある事等、利用者の残された力を最大限に引き出し、生き甲斐や喜びのある生活ができる支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は天候や体調を考慮しながら、利用者一人ひとりの希望に添った散歩や買い物、行事参加などに出かけ、事業所に閉じこもらないよう外出する機会を設け支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	概ね午後9時より午前6時までは防犯上の理由で施錠しているが、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災による避難訓練は消防署立会いが年1回、(夜間訓練は3月に予定)防災設備会社の訓練が年2回行われ、緊急通報システムやマニュアル等も整備されているが、町内会や近隣住民への働きかけは行われておらず、協力体制を築くまでには至っていない。	○	夜間、2ユニットを一人の職員が対応している事は、災害時に18名の利用者を避難、誘導させる事は不可能である。職員と利用者との大切な生命を守るためにも、運営推進会議等の機能を活用し、現在実施している避難訓練に加えて、積極的に地域住民の協力を得ながら避難できるような働き掛けや体制作りが望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量は個々の記録に残し、一人ひとりの身体状況に合わせた支援が行われているが、献立のバランスやカロリー計算等の専門的な見直しは行われていない。	○	食は利用者にとって楽しみ事の一つであり、利用者の健康と体力維持の上でも、栄養のかたよりにないかどうか、定期的に専門的観点から、栄養士等にアドバイスや献立表をチェックしてもらう事が望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、風通しもよく、お手製の飾りつけや花などが生けられ、家庭的な雰囲気と四季感を意識的に取り入れるよう工夫している。温湿計の設置もあり、冬季間の湿度の保全にも注意をはらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や装飾品、仏壇等が持ち込まれ、それぞれの好みに応じた環境の中で居心地良く過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。